

ETAS INCA V7.5



インストールガイド

著作権について

本書のデータをETAS GmbHからの通知なしに変更しないでください。ETAS GmbHは、本書に関してこれ以外の一切の責任を負いかねます。本書に記載されているソフトウェアは、お客様が一般ライセンス契約あるいは単一ライセンスをお持ちの場合に限り使用できます。ご利用および複写はその契約で明記されている場合に限り、認められます。

本書のいかなる部分も、ETAS GmbHからの書面による許可を得ずに、複写、転載、伝送、検索システムに格納、あるいは他言語に翻訳することは禁じられています。

© **Copyright 2024** ETAS GmbH, Stuttgart

本書で使用する製品名および名称は、各社の（登録）商標あるいはブランドです。

INCA V7.5 | インストールガイド R02 JP - 12.2024

目次

1	はじめに	5
1.1	製品の正しい使用法	5
1.2	対象ユーザー	5
1.3	安全に関する注意事項の書式	5
1.4	本製品使用時の安全に関する注意事項	6
1.5	データ保護	6
1.6	データと情報のセキュリティ	6
2	インストールの準備	7
2.1	パッケージの内容	7
2.2	システム要件	7
2.3	ユーザー特権	8
2.4	ファイアウォールの設定	9
2.5	ウイルススキャンの設定	10
3	ソフトウェアをインストールする	11
3.1	サービスパックインストーラによる一括インストール	11
3.2	セットアッププログラムによる個別インストール	14
3.3	複数バージョンのINCAのインストール	15
3.4	ソフトウェアの更新	16
4	ソフトウェアのライセンス管理	17
5	ネットワークアダプタのアドレッシングと構成	18
6	インストールのカスタマイズ	19
6.1	サービスパックインストーラによるインストールのカスタマイズ	19
6.1.1	インストール内容の設定	19
6.1.2	コマンドライン引数を用いたインストール設定	21
6.1.2.1	コマンドライン引数	22
6.1.2.2	エラーコード	23
6.2	セットアッププログラムのカスタマイズ	25
6.2.1	インストール内容の設定	25
6.2.2	ライセンス運用についての設定	28
7	ソフトウェアのアンインストール	30
8	トラブルシューティング	31
8.1	パーソナルファイアウォールによる通信のブロック	31

8.1.1	ETASハードウェアへのアクセスに必要なファイアウォール通過の許可	31
8.1.2	XCP on Ethernetへのアクセスに必要なファイアウォール通過の許可	31
8.1.3	DoIP (Diagnostics over Internet Protocol) へのアクセスに必要なファイアウォール通過の許可	32
8.1.4	パーソナルファイアウォールの設定変更	32
8.2	ETASネットワーク用のネットワークアダプタを選択できない	33
8.3	インストールに失敗する	34
9	お問い合わせ先	36
索引	37

1 はじめに

1.1 製品の正しい使用法

INCAとINCAアドオンは、自動車への応用を前提に開発されたものであり、それらのユーザードキュメントに記述された範囲でのみ使用することができます。

ETAS GmbHは、誤った使い方や安全情報を守らないことによって生じた損害については責任を負いかねます。

1.2 対象ユーザー

本ソフトウェア製品および本ユーザーガイドは、自動車用ECUの開発・適合に携わる有資格者や、ソフトウェアをインストール・保守・アンインストールするシステム管理者または管理者権限のあるユーザーを対象としています。計測とECUに関する技術的な専門知識が必要とされます。

1.3 安全に関する注意事項の書式

以下の「安全に関する注意事項」は、人身事故や物的損害につながる危険性を警告するものです。



危険

記載事項を守らないと死亡または重傷のリスクが高い危険性について説明しています。



警告

記載事項を守らないと死亡または重傷のリスクを招く可能性のある危険性について説明しています。



注意

記載事項を守らないと軽～中程度の負傷のリスクを招く可能性のある危険性について説明しています。

ご注意ください！

記載事項を守らないと物的損害を招く可能性のある状況について説明しています。

1.4 本製品使用時の安全に関する注意事項

INCAとINCAアドオンを用いた作業を行う際には、以下の安全情報を遵守してください。



警告

予期しない車両の挙動を招く危険があります。

適合操作は、ECU、およびECUに接続されたシステムの挙動に影響を与えます。

その結果、エンジンが停止したり、予期せぬ車両の挙動（ブレーキング、加速、操舵など）が発生する可能性があります。

適合操作は、製品の使用に関する講習を受け、接続されたシステムの起こり得る反応を評価できる方のみが実施してください。



警告

予期しない車両の挙動を招く危険があります。

CAN、LIN、FlexRay、イーサネットなどのバスシステムでメッセージを送信すると、接続されたシステムの動作に影響を与えます。

その結果、エンジンが停止したり、予期せぬ車両の挙動（ブレーキング、加速、操舵など）が発生する可能性があります。

バスシステム経由のメッセージ送信は、各バスシステムの使用に関する十分な知識があり、接続されたシステムの起こり得る反応を評価できる方のみが実施してください。

「ETAS Safety Advice - 安全上のご注意」の指示、およびINCAのヘルプとユーザーガイドに記載されている安全情報を遵守してください。この情報を参照するには、INCAのヘルプメニューヘルプ > **安全上のご注意** を選択してください。

1.5 データ保護

製品に個人データを処理する機能が含まれている場合、データ保護およびデータプライバシーに関する法律上の要件は、お客様が遵守するものとします。製品の当該機能に続いて行われる処理は、通常、データ管理者であるお客様が設計するものとします。したがって、保護措置が十分かどうかのチェックもお客様に行っていただく必要があります。

1.6 データと情報のセキュリティ

本製品におけるデータの安全な取り扱いについては、INCA ヘルプ内の「データと情報のセキュリティ」セクションを参照してください。

2 インストールの準備

本章では、INCA V7.5製品パッケージの内容、および製品をインストールするためのハードウェア要件とソフトウェア要件について説明します。

2.1 パッケージの内容

インストールDVDおよびインストールパッケージ（サービスパック）には、以下のアイテムが含まれています。

- － INCA、MDA、ETK ツール
- － INCAアドオン
- － ハードウェアサービスパック（HSP）
- － ドキュメント
 - ヘルプ
 - ユーザーマニュアル
 - ビデオチュートリアル

注記

インストールパッケージのダウンロード方法などについての詳細は、「[ソフトウェアをインストールする](#)」（ページ11）を参照してください。

2.2 システム要件

以下の表は、INCAを操作するための「必要最低条件」と「推奨条件」をまとめたものです。「必要最低条件」は、比較的小規模のプロジェクトを扱う際にINCAがスムーズに動作することを保証するものです。処理をより高速化したい場合は、「推奨条件」を満たすようにしてください。特に、非常に規模の大きなプロジェクトや実験を扱うには、より多くのメモリが必要になります。

INCAのパフォーマンスに影響を与える要因に関する詳細は、INCAのインストールフォルダ内の**Manual**サブフォルダにインストールされているパフォーマンス向上に関するPDFドキュメント『パフォーマンス向上のためのヒント』を参照してください。

注記

システム要件についての詳細は、リリースノートを参照してください。

	必要最低条件	推奨条件
オプションハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> - ネットワークアダプタ - DVD-ROMドライブ (DVDからインストールを行う場合のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> - ネットワークアダプタ - DVD-ROMドライブ (DVDからインストールを行う場合のみ)
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> - 2 GHz 	<ul style="list-style-type: none"> - 3 GHzクアッドコアプロセッサ、またはその同等品
RAM	<ul style="list-style-type: none"> - 2 GB 	<ul style="list-style-type: none"> - 16 GB
グラフィックカード	<ul style="list-style-type: none"> - 1024×768の解像度 - 256 MB RAM - 16ビットカラー /DirectX 9 	<ul style="list-style-type: none"> - 1280×1024の解像度 - 1 GB RAM - 32ビットカラー /DirectX 9
ハードディスクの空き容量	<ul style="list-style-type: none"> - 5 GB (ユーザーデータを含まず) 	<ul style="list-style-type: none"> - 10 GB以上
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> - Windows® 10 Version 1803以上 (64ビット) - Windows® 10 Enterprise LTSC 2016以上 (64ビット) - Windows® 11 (64ビット) - WINDOWS® Server 2016/2019/2022 (64ビット) 	<ul style="list-style-type: none"> - Windows® 10 (64ビット) - Windows® 11 (64ビット)
<p>※サポートしているOS言語は、英語、フランス語、日本語、中国語、ドイツ語です。</p>		

2.3 ユーザー特権

管理者特権

以下のことを行うには、Windowsの管理者特権が必要です。

- ソフトウェアをインストールする
- ソフトウェアの再登録を行わずに特定バージョンのCOM APIにアクセスする

ユーザー特権

ソフトウェアを操作するユーザーは、以下の場所への読み取り／書き込みアクセス権が必要です。

- － レジストリの以下のフォルダとその全サブフォルダ
 - INCA用 :
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ETAS
 - INCAの操作に関連する32ビットコンポーネント用 :
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\ETAS
- － TEMPディレクトリ（INCAのインストール時に指定可能）
- － プログラムのインストール先のディレクトリ
- － ETASShared15（例：c:\Program files\Common files\ETAS\ETASShared15）内の共有コンポーネント
- － INCAデータディレクトリ（例：c:\ETASData）とその全サブディレクトリ
- － 共通ディレクトリ（c:\Program Files\Common Files\ETAS）とその全サブディレクトリ
- － ETASログファイルディレクトリ
（例：c:\ETAS\LogFiles、%AppData%\ETAS\Setup）とその全サブディレクトリ

リモートアクセスを行う場合も、同じユーザー特権が必要です。

2.4 ファイアウォールの設定

INCA用PCで使用されているファイアウォールについては、INCAが使用する測定／適合ハードウェアとの通信をブロックしないように設定してください。ポートの設定に関する詳細な情報は、使用するファイアウォールソフトウェアのユーザードキュメントを参照してください。

アクセス許可の必要なポートについては、「トラブルシューティング」（ページ31）を参照してください。

2.5 ウィルススキャンの設定

ウィルススキャンソフトウェアによりシステムのパフォーマンスが著しく低下する可能性があり、極端な場合は、システムがフリーズして記録データが無効になってしまうように見えることもあります。

ウィルススキャンによるパフォーマンス低下を防ぐ

1. INCA用PC上で、ウィルススキャン用のスキャンパスから以下のパス¹⁾を除外します。
 - <ドライブ>:\Program Files\ETAS
 - <ドライブ>:\ETAS
 - <ドライブ>:\ETASData
 - INCAが使用する一時ディレクトリ
2. ウィルススキャンのスケジュールを変更し、INCAを使用しない時間帯に実行されるようにしてください。

1) 各パスはINCAのインストール時に変更できるため、実際のパスはPCごとに異なる場合があります。

3 ソフトウェアをインストールする

インストールを行う前に、PCがシステム要件を満たしていることを確認してください。詳しくは「[インストールの準備](#)」(ページ7) を参照してください。インストールと更新には2とりの方法があり、サービスパックインストーラで一括して行うか、または各ソフトウェア/アドオンのセットアッププログラム (Setup.exe) で個別に行うことができます。

INCAインストールパッケージ (サービスパック) をダウンロードする

1. ETASホームページで、**ダウンロードセンター** を開きます。
2. アイテムリストのヘッダで、**INCA > INCA V7.5 > ソフトウェア** を選択します。
3. インストールパッケージ (*.zip) をダウンロードします。
4. Windowsエクスプローラで、ダウンロードしたZIPファイルを選択して右クリックし、ショートカットメニューから **プロパティ** を選択します。
5. **全般** タブで、セキュリティ: グループの **ブロックの解除** チェックボックスをオンにします。
6. ZIPファイルを解凍します。解凍する場所は、以下の注記に従ってください。

注記

セットアップされるすべてのコンポーネントの完全なファイル名とディレクトリ名には制限事項があり、すべて所定の文字数以下にする必要があります。それぞれの文字数は個別に計算されます。

ダウンロードしたサービスパックは、インストーラプログラムSetup_ServicePack.exeのパスが80文字を超えないような場所に置いてください。

インストールパッケージのフォルダ構成やフォルダ名、ファイル名は、変更しないでください。

3.1 サービスパックインストーラによる一括インストール

サービスパックインストーラ (下図参照) は、複数のソフトウェア (INCAやMDA) とそのアドオン、各種ツールなどを一括して自動的にインストールするものです。このインストーラは、デフォルト設定を用いてインストールを行います。デフォルト設定をカスタマイズする方法は、「[インストールのカスタマイズ](#)」(ページ19) を参照してください。



1. ソフトウェア一覧：サービスパックインストーラでインストールできるETAS製品のソフトウェアが階層表示されます。すでにPCにインストールされているソフトウェアについては「インストール済みバージョン」列にそのバージョンが表示されます。「サービスパックのバージョン」列にはこのインストーラでインストールできるバージョンが表示されます。「インストール」列のチェックボックスではインストールするソフトウェアを選択することができます。

INCA V7.4からINCA V7.5へアップグレードする場合、前回のインストール時の選択が自動的に引き継がれます。「注釈」列に、これらの設定を行ったINCAのバージョン情報が表示されます。この設定は無効にすることもできます。詳しくは、「[インストール内容の設定](#)」（ページ19）を参照してください。

「ステータス」列には、各ソフトウェアの状態を表す以下のアイコンが表示されます。

アイコン	状態
	インストール（または修復）処理が行われます。
	インストール（または修復）処理が正常に行われました。
	サービスパックのバージョンにダウングレードされます。
	サービスパックのバージョンにアップグレードされます。
	PCにインストールされていません。
	インストールが中断され、PCの再起動待ち状態です。
	インストール（または修復）処理中にエラーが発生しました。

2. 修復モード チェックボックス：インストール済みのバージョンに問題が生じていて、修復する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにします。
3. 言語選択ドロップダウンリスト：デフォルト設定では英語です。ここで選択した言語は、サービスパックインストーラだけでなく、インストール済み、または今後インストールされるINCAとINCA アドオンにも適用されます。
4. インストールまたは修復の処理を開始します。
5. インストールや修復の処理がまだ実行されていない場合は、「閉じる」ボタンでサービスパックインストーラを終了することができます。

ソフトウェアをインストールする

1. PC上で実行されているETASのソフトウェアをすべて終了します。

注記

インストール時に、他のソフトウェアの更新（例：OSの更新）は行わないでください。他の更新処理がすでに実行されている場合は、その終了を待ち、PCを再起動してからインストールを行ってください。


2. サービスパックのルートにあるSetup_ServicePack.exeを起動します。
"サービスパックインストーラ" ウィンドウが開きます。
3. **インストール** 列で、インストールするソフトウェア製品とアドオンを選択します。
グループの最上位のアイテムを選択すると、下位のアイテムがすべて選択されます。
4. セットアップ用言語を選択します。

注記

ここで選択した言語は、サービスパックインストーラだけでなく、インストール済み、または今後インストールされるINCAとそのアドオンにも適用されます。

5. 設定内容を確認し、**インストール** をクリックします。
インストールが開始され、ステータス 列に各ソフトウェアの処理状況が表示されます。終了すると、インストール ボタンが 再起動のオプション ボタンに変わります。
6. **再起動のオプション** ボタンをクリックします。
再起動について設定するためのダイアログボックスが開きます。

注記

インストールの終了後は、システムを再起動することをお勧めします。
一部のソフトウェアは、インストール処理の途中で再起動が必要になる場合があります。その場合はステータス列に警告アイコン  が表示され、PCの再起動後に処理が続行されます。

7. 再起動のオプションを選択します。
8. **OK** をクリックします。

サービスパックインストーラは、指定されたソフトウェアを自動的にサイレントモードでインストールするので、個別のインストールウィンドウなどは開きません。

製品DVDでインストールを行う

1. PC上で実行されているETASのソフトウェアをすべて終了します。
2. PCのDVDドライブにINCAの製品DVDを挿入します。
インストールプログラムが自動的に起動します。
起動しない場合は、DVD内のautostart.exeファイルを手動で実行してください。
3. 国旗のアイコンをクリックして、インストーラの表示言語を選択します。
4. **インストール**（日本語を選択した場合）をクリックします。
5. **INCA V7.5 / MDA V8.7 / アドオン**（日本語を選択した場合）をクリックします。
"サービスパックインストーラ" ウィンドウが開きます。
6. [「ソフトウェアをインストールする」\(前ページ\)](#) の手順でインストールを行います。

3.2 セットアッププログラムによる個別インストール

個別インストールを行う場合は、サービスパックインストーラを使用せずに個別のインストールルーチンを使用します。個別インストールを行うと、個々のETASソフトウェアを1つずつインストールすることができます。

INCAのメインソフトウェア（例）を個別にインストールする

1. PC上で実行されているETASのソフトウェアをすべて終了します。
2. 社内規定に応じて、インストーラファイルはDVDまたはネットワークドライブで提供されません。
INCA のインストールディレクトリからSetup.exe を起動します。デフォルトにおいて、setup.exeは <root>¥01_INCA_V7.5.<x>¥00_Prod_INCA_75<x>_x64に保存されています。
ネットワークドライブからソフトウェアをインストールする場合は、setup.exe ファイルを実行します。
セットアッププログラムのインストールウィザードが開きます。
3. 必要に応じてインストーラの表示言語を選択し、次へ をクリックします。

各種データ（プログラムファイル、プログラムデータ、ログファイル、一時ファイルなど）は、それぞれ個別のディレクトリに保存されます。後にソフトウェアアンインストールや更新を行うと、プログラムファイルはすべて削除（または上書き）されますが、プログラムデータはそのまま保持されます。プログラムデータには以下のようなものが含まれます。

- － データベース
- － 可変ユーザーインターフェース
- － デモ用の各種ファイル
- － 測定ファイル
- － ユーザープロファイル

i 注記

INCA データファイル用にProgram Files下のフォルダを指定すると、Windowsのユーザー権利の設定によってはINCA からこのフォルダにアクセスできない場合があります。INCAのデータファイルは、Program Files フォルダに保存しないでください。データフォルダには必ずすべてのユーザーが読み書き権限を持つ場所を指定してください。

i 注記

ここで選択した言語はグローバル設定として扱われ、ETASのすべての多言語対応ソフトウェアのユーザーインターフェースに適用されます。

i 注記



インストールウィザードにはユーザー情報を入力するページが含まれますが、このページへの入力は任意です。ここに入力された情報はINCAの操作時に使用されます。


3.3 複数バージョンのINCAのインストール

INCAは、複数のバージョンを同じPCにインストールして使用することができます。つまり、旧バージョンのINCAがインストールされているPCに、INCA V7.5をインストールすることができます。ただし、1台のPCに複数バージョンのINCAをインストールする際には、以下の点に留意してください。

- INCA V7.2以前のバージョンのデータベースをINCA V7.3またはそれ以降のバージョンで開こうとすると、INCAはユーザーに対して、このデータベースを新しい64ビットフォーマットに変換することを勧めます。
- INCA V7.3またはINCA V7.4で作成したデータベースをINCA V7.5で開いた場合は、INCA V7.3またはINCA V7.4でそのデータベースを再び開いて編集することができます。
- INCA V7.2で作成したデータベースをINCA V7.5で開いた場合は、そのデータベースをINCA V7.5上で手動で旧フォーマットに変換することにより、INCA V7.2でそのデータベースを再び開いて修正することが可能になります。この変換は、データベースマネージャでインポート／エクスポート機能を用いて行います。これらの機能については、INCAヘルプの「データベースアイテムをエクスポートする」と「データベースアイテムをインポートする」を参照してください。
- INCA V7.5で作成したデータベースをINCA V7.4またはそれ以前のバージョンで開くと、INCA V7.5において新たに実装された機能に関連するアイテムは、失われます。

3.4 ソフトウェアの更新

プログラムのアップデートにはサービスパックインストーラを使用します。現在インストールされているINCAのバージョンをアップグレードまたはダウングレードすることができます。インストーラによってアップグレードされるソフトウェアについてはステータス列にアップグレードアイコン  が表示され、ダウングレードされるソフトウェアにはダウングレードアイコン  が表示されます。

サービスパックに含まれるソフトウェアの一覧を見るには、「サービスパックインストーラによる一括インストール」(ページ11) を参照してサービスパックインストーラを開いてください。サービスパックに含まれているソフトウェアについては、サービスパックのバージョン列にそのバージョンが表示され、ステータス列にアップグレードアイコン  が表示されます。

注記

サービスパックインストーラに含まれていないINCAアドオンがPCにインストールされている場合は、これらもすべて個別に更新する必要があります。更新されていないアドオンがあると、ソフトウェアが正しく機能しなくなる可能性があります。

INCAとともにハードウェアを使用している場合は、すべてのファームウェアの更新も必要です。適切なバージョンのHSP（ハードウェアサービスパック）をご利用ください。対応バージョンはリリースノートに記載されています。

4 ソフトウェアのライセンス管理

ETASのソフトウェアを使用するには、有効なライセンスが必要です。ライセンスは、下記のいずれかの方法で入手できます。

- － ツール管理者
- － ETASホームページのセルフポータルサイト：
www.etas.com/support/licensing
- － ETAS ライセンスマネージャ (ETAS License Manager)

ライセンスをアクティベートする際は、製品のご購入時にETASから入手したアクティベーションIDを入力する必要があります。

ライセンスの管理について詳しくは、[ETAS License Management FAQ](#)またはライセンスマネージャのヘルプを参照してください。

ETASライセンスマネージャは、ETASのソフトウェアをインストールしたコンピューター上で使用可能になります。

1. Windowsのスタートメニューから**E > ETAS > ETAS License Manager**の順に選択します。
ETAS ライセンスマネージャが開きます。
2. ライセンスマネージャの画面をクリックし、**F1**をクリックします。
ライセンスマネージャのヘルプが表示されます。

INCAのリモート操作

インターネットまたはネットワークアプリケーション (Microsoftリモートデスクトップ、その他の端末/デバイスサービスなど) を介してINCAワークステーションライセンス (マシンベースライセンス) を使用することはできません。ただしこの制限は、テストベンチ用通信プロトコル (ASAP 3、MCD-3 MC、iLinkRT) を介したINCAの操作には適用されません。

ユーザーネームライセンスまたはフローティングライセンス (コンカレントライセンス) を使用する場合は、同時に1人のユーザーが1つのライセンスのみを使用することが保証されている限り、Microsoftリモートデスクトップ経由でINCAにアクセスすることができます。

5 ネットワークアダプタのアドレッシングと構成

ETAS ネットワークマネージャは、ETAS IPマネージャが使用するコンフィギュレーション（ネットワーク構成）を作成するためのツールです。IP マネージャは、ネットワーク接続されたETAS ハードウェアの動的IP アドレッシングを行います。

Windowsのスタートメニューから以下を選択します。

E > ETAS INCA 7.5 > INCA V7.5 Tools > ETAS Network Settings

ネットワークマネージャのウィンドウに表示される指示に従って操作してください。アドレッシングや構成などに関する詳細は、ネットワークマネージャのオンラインヘルプ（<F1>）を参照してください。

6 インストールのカスタマイズ

INCAのインストーラファイル（製品DVD、またはETASダウンロードセンターからご入手いただけます）は、ネットワークドライブにコピーしたものを各ユーザーに提供することができます。ネットワークインストールの利点は、インストールを行う前にあらかじめインストール内容を調整しておくことができる点にあります。これにより、社内共通のデフォルト設定を適用することが可能になります。

INCAソフトウェアのインストールは、サービスパックインストーラによる一括インストールのほか、個々のソフトウェア製品を個別にインストールすることもできます。個別インストールにおいては、インストール処理とライセンス管理に関する設定をカスタマイズすることができます。

6.1 サービスパックインストーラによるインストールのカスタマイズ

ネットワーク経由でサービスパックインストーラによるインストールを行う際には、前もってインストールのデフォルト設定を変更しておくことができます。

これは設定ファイル`Installation.xml`を調整することによって行います。このファイルはサービスパックのルートディレクトリにあり、テキストエディタで開くことができます。

また、コマンドラインからインストールを行うと、コマンドライン引数によって処理内容を指定することができます。

6.1.1 インストール内容の設定

サービスパックインストーラの設定ファイル`Installation.xml`は、どのソフトウェアやアドオンをインストールするかを定義するもので、サービスパックインストーラと同じ場所に格納されています。ファイル内では以下の3種類のXMLタグが使用されています。

1. `<Product>`は、インストールするソフトウェアを示します。
このタグには以下の2つの属性が含まれます。
 - `action:install`はソフトウェアのインストールを行い、`default`は何もアクションを実行しません。
 - `name`: インストールするソフトウェアの名前（INCAまたはMDA）
2. `<Category>`は、`<Product>`タグ内の2つのセクションを示します。
このタグには以下の2つの属性が含まれます。
 - `action:install`はアドオンのインストールを行い、`default`は何もアクションを実行しません。
 - `name:01_General AddOns (free)`は無償アドオン、`02_Licensed AddOns`はライセンスの必要なアドオンです。
3. `<Addon>`は使用可能なすべてのアドオンを示します。
このタグには以下の2つの属性が含まれます。
 - `action:inherited`は親タグの設定（`install`または`default`）を継承し、`exclude`はアドオンをインストールしません。
 - `name`: アドオンの名前（次表に一覧を示します）
4. `<VersionCheckFormerY>`で、サービスパックインストーラを使用した新規インストール時に、前回のインストール時に指定した同じ製品およびアドオン構成でインストールを行うかどうかを指定します。

例

INCA V7.4が既にインストールされている環境にINCA V7.5をインストールする場合、INCA V7.4のインストール時に選択した製品およびアドオンの構成でインストールは行われます。

INCA V7.5がインストールされる際、既にインストールされているINCA V7.4には変更は入りません。INCA V7.4のインストールされているPCにINCA V7.5が並行してインストールされます。

ただし、以下の例で示す通り、最新のマイナーバージョンがインストールされると、それ以前のマイナーバージョンのチェックは行われません。

例

INCA V7.4がインストールされている環境に、INCA V7.5サービスパックバージョンをインストールすると、それ以降、INCA V7.5 SPzのインストールによってINCA V7.5のサービスパックバージョンは、アップデート/ダウングレードされますが、INCA V7.4 SPzのバージョンのチェックは行われません。

この設定は、Installation.xmlの以下の設定で、有効/無効にできます。

true <VersionCheckFormerY>true</VersionCheckFormerY>

INCA V7.5 SPz のインストール時に、以前のマイナーバージョン（例：INCA V7.4 SPz）インストール時の製品およびアドオン構成が継承されます。

デフォルトでは、この設定になっています。

false <VersionCheckFormerY>false</VersionCheckFormerY>

個別にインストールする製品およびアドオンの選択が必要になります。XMLコンフィギュレーションファイル内の他の設定のみが引き継がれます。

i 注記

サービスパックに、ご使用中の製品と同一のもので同じ名前を持つものがあるかどうかを確認してから選択を行ってください。

actionパラメータには以下の値を使用できます。

値	意味
Default	このパッケージの別バージョンがすでにインストールされていて、そのアップグレードまたはダウングレードが必要な場合に限り、インストールが実行されます。
Install	可能な場合はインストールが実行されます。サブパッケージ（アドオンなど）については、当該サブパッケージに対応するバージョンの基本製品がすでにインストールされているか、またはインストールが必要な場合に限り、実行されません。
Exclude	当該パッケージは、その親パッケージがアップグレード／ダウングレードされる場合を除き、インストール処理から除外されます。
Inherited	サブパッケージのアクションは、その親パッケージから継承されます。

INCAのアドオンには、以下のものがあります。

無償アドオン	ライセンスの必要な有償アドオン
AddOn_EV-Instruments	AddOn_MCE
AddOn_DriveRecorder	AddOn_MCE-RT
AddOn_eCDM	AddOn_Vector-Hardware
AddOn_VN-Converter	AddOn_FlexRay
AddOn_Video-Tutorials	AddOn_LIN
	AddOn_QM-Basic
	AddOn_EIP
	AddOn_SIP
	AddOn_ODX
	AddOn_SOMEIP_MC
	AddOn_CANTransmit
	AddOn_CAN-Trace
	AddOn_INCA-VoiceRecorder
	AddOn_INCA-TOUCH
	AddOn_RDE

6.1.2 コマンドライン引数を用いたインストール設定

コマンドラインでサービスパックインストーラを実行すると、コマンドライン引数で処理内容を指定することができます。これによって、インストーラルーチン実行中にダイアログボックスが開かないようにして、すべてのコマンドを非表示で実行することができます。このオプションを使用すれば、ユーザーの作業を中断することなくPCにINCAをインストールすることができます。

コマンドライン引数の使用例

```
Setup_ServicePack.exe [[/S | /VS | /I] | /T | /R |
/AllowRestart | /NoRestart | /CreateConfiguration |
/NoAutoResume | /DefaultConfiguration=<filename> |
/RestartDelayTime=<mins> | /NoAutoResume | /?]
```

以下に、すべてのコマンドライン引数について説明します。また「エラーコード」(次ページ)には、インストール時に発生する可能性のあるエラーについての説明がまとめられています。

6.1.2.1 コマンドライン引数

引数	説明
/?; /help	ヘルプウィンドウが開き、使用できるコマンドライン引数と、カスタマイズできるパッケージの詳細が表示されます。
/s	サービスパックインストーラをサイレントモード（GUIを使用しないモード）で起動します。サイレントモードにおいてはインストールルーチンなどのダイアログボックスが開きません。すべてのコマンドは非表示で実行されます。これにより、ユーザーの介入なしにINCAをインストールすることができます。この引数は、/NoRestartまたは/AllowRestartと組み合わせて使用する必要があります。
/vs	サービスパックインストーラを完全なサイレントモード（ダイアログボックスなどのGUIやシステムトレイの通知アイコンなどが一切表示されないモード）で起動します。/sと共に使用することはできません。
/I	サービスパックインストーラをインタラクティブモード（GUIを使用するモード）で起動します。
/T	インストールするパッケージの有無を確認し、結果をGUIに表示します。
/R	インストール済みパッケージを、すべて無条件に修復／再インストールします。
/NoRestart	インストール中にPCの再起動が要求されても、これをすべてスキップします。/sと共に使用することにより、サイレントモードでのインストール終了後の再起動を省略することができます。再起動が省略されると、その旨がログメッセージとして記録されます。サイレント引数を使用する場合は、/Allow Restartと/No Restartのいずれかを使用する必要があります。再起動が行われないとインストールが完了しない可能性があるため、この引数の使用はお勧めしません。

引数	説明
/AllowRestart	個々のインストール間にPCの再起動が必要な場合は、それを許可します。
/RestartDelayTime=<mins>	再起動の遅延時間を指定します。 /AllowRestartと組み合わせて使用する必要があります。
/NoAutoResume	ソフトウェアの自動展開ツール（SCCMなど）において、インストール中断時に要求されるシステム再起動とレジュームを制御します。 この引数を使用すると、各モジュールのインストール間で要求される自動再起動と、再起動後の自動レジューム処理が省略されます。 setup.exeが終了コード26を返した場合は、展開用スクリプトはPCの再起動を実行し、再起動後にsetup.exeを再実行してインストールを続行し、完了させる必要があります。 終了コード31を返した場合は、展開用スクリプトはPCの再起動のみを実行する必要があります。 /NoAutoResumeは、/NoRestartまたは/AllowRestartと併用できません。
/CreateConfiguration	デフォルト設定を含む新しいXMLコンフィギュレーションファイルInstallation.xmlを生成します。
/DefaultConfiguration=<filename>	サービスパックインストーラで使用するXMLコンフィギュレーションファイルを指定します。指定がない場合は、デフォルトのInstallation.xmlが使用されます。
/Clean	この引数は、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または「プログラムと機能」で部分的にインストールされた製品を削除した後にサービスパックがエラーコード27で異常終了した場合にのみ使用してください。この引数を使用すると、レジストリのパスSOFTWARE\ETAS\History\SPIがクリーンアップされます。

6.1.2.2 エラーコード

サービスパックインストーラSetup_ServicePack.exeは、正常終了時にはエラーコード0を返します。

何らかの異常が発生した場合は0以外のエラーコードを返します。

サイレントモードでSetup_ServicePack.exeを実行すると、以下のエラーコードが返ります。

エラーコード	エラー内容
0	インストールは正常に終了しました。
1	サービスパックのフォルダ内に、インストールパッケージが見つかりません。
2	対応するバージョンのINCAがインストールされていません。
3	ログファイルのパスが取得できません。
4	インタラクティブなインストール処理において、ユーザーが処理を中断しました。
5	インストールが失敗、または中断されました。
6	ログファイルの更新中にエラーが発生しました。
8	ログファイルのクローズ中にエラーが発生しました。
9	ログファイルの作成中にエラーが発生しました。
10	パッケージINIファイルのコピー作成中にエラーが発生しました。
11	パッケージINIファイルを一時フォルダにコピーする際にエラーが発生しました。
12	インストール済みバージョンとサービスパックのバージョンを比較する際に例外がスローされました。
13	Installation.xmlファイルのXML形式が無効、または同ファイルのパスが設定されているのに関わらずその場所にファイルが見つからない、または無効な引数が渡されました。
14	インストール済みパッケージのバージョンがWindowsレジストリから取得できませんでした。
15	ユーザーに管理者権限がないため、インストールを開始できません。インストールを実行するための必要条件が満たされていません。
16	インストールの開始に失敗しました。
17	インストールパッケージからホットフィックス番号が取得できません。
18	サービスパックのファイルバージョン情報が正しく取得できませんでした。
20	セットアップの別のインスタンスが実行されています。その処理が完了してから、このセットアップを続行してください。
25	標準の設定ファイルinstallation.xmlの作成時にエラーが発生しました。
26	インストールを完了させるため、製品がPCの再起動を要求しています。再起動後、サービスパックインストーラはインストール処理を自動的に続行します。

エラーコード	エラー内容
27	別バージョンの製品の一部がすでにインストールされているため、サービスパックインストーラの処理を進めることができません。別バージョンのインストールを完了してから、このインストールを行ってください。
28	レジュームコンフィギュレーションのパスまたはファイルが見つかりません。コントロールパネルの「アプリケーションと機能」または「プログラムと機能」で製品をアンインストールするか、パッケージの供給元に問い合わせてください。
29	レジュームコンフィギュレーションが無効です。コントロールパネルの「アプリケーションと機能」または「プログラムと機能」で製品をアンインストールするか、パッケージの供給元に問い合わせてください。
30	前回のインストール時のPC再起動が保留されています。PCの再起動後にサービスパックインストーラがインストールを続行します。
31	インストールは正常に終了しました。インストールを完了させるため、PC再起動がトリガされます。
32	部分的にインストールされたプログラムのレジューム引数のクリーンアップ（/Clean引数によるレジストリSOFTWARE\ETAS\History\SPIの消去）に失敗しました。サポート窓口までお問い合わせください。
33	コマンドライン引数が無効です。「 コマンドライン引数を用いたインストール設定 」（ページ21）と「 コマンドライン引数 」（ページ22）を参照してください。
34	インストール処理が、ユーザーによる要求（再起動、ログオフ、シャットダウンのいずれか）によって強制終了しました。

6.2 セットアッププログラムのカスタマイズ

ネットワーク経由で個々のソフトウェアのインストールを行う際には、前もってインストールされるソフトウェアのデフォルト設定を変更しておくことができます。

これは、個々の製品インストールの設定ファイル

InstallationDefaultSettings.xmlとライセンスファイルlicencing.iniを調整することによって行います。これらのファイルは、インストールパッケージ内の各ソフトウェアのフォルダに含まれていて、テキストエディタで開いて編集することができます。

サービスパックインストーラで一括インストールを行う場合も、これらのファイルが使用されます。

ファイルはXML形式で、自動インストールと手動インストールの両方で使用されます。

6.2.1 インストール内容の設定

InstallationDefaultSettings.xmlは、各ソフトウェアのセットアッププログラムsetup.exeと同じ場所に格納されていて、ソフトウェアのデフォルト設定が定義されています。

 **注記**

ETASの各ソフトウェアは、それぞれ個別の設定ファイルを使用しますが、そこで設定されるパラメータは共通です。あるソフトウェアをインストールすると、以前にインストールされたソフトウェアが同じパラメータ（一時ディレクトリ、レジストリエントリなど）を設定していた場合は、その値が上書きされます。

設定ファイルを編集する際には、各ソフトウェアで同じ設定を使用するようにしてください。

ここで使用できるパラメータは以下のとおりです。

- CONTINUE_ON_TRACE_OVERFLOW（トレースオーバーフロー発生時に測定を継続）
 - true

測定を継続しますが、データ抜けや、失効した可能性のあるデータがトレースバッファ内に認められると、INCAはそれらをスキップします。
 - false

（デフォルト）測定を終了して再初期化を行います。再初期化中は、ECUはデータを送信しません。
- IPM_AUTO_IP_RANGE
 - true

ネットワークマネージャの IPアドレス範囲の自動構成 オプションのデフォルト設定をオンにします。このオプションがオンになっていると、ETASネットワークマネージャは、選択されたネットワークアダプタがETASハードウェアにアクセスする際に使用するデフォルトIP範囲を自動設定します。
 - false

ネットワークマネージャの IPアドレス範囲の自動構成 オプションのデフォルト設定をオフにします。このオプションがオフの場合は、ユーザーが固定IPアドレスをマニュアル設定するか、またはデフォルトアドレスをそのまま使用します。
- IPM_AUTO_CONFIG_NIC

ネットワークマネージャに複数のネットワークアダプタからいずれかを選んで自動構成させるかどうかを指定するためのパラメータです。

 - true

ネットワークマネージャの ETASネットワークの自動構成 オプションのデフォルト設定をオンにします。これにより、複数のネットワークアダプタを同時にアクティブ化して自動構成することができます。ネットワークマネージャは、現在選択されているネットワークアダプタを先頭に、アダプタリストを下の方向へ順にチェックし、ETAS用に有効なIP構成¹⁾を持つネットワークアダプタを見つけると、そのアダプタを使用してIPアドレス範囲を自動的に設定します。
 - false

1) ネットワークアダプタが固定IPアドレスを使用している場合、またはDHCPとAPIPAが有効になっている場合、IP構成は「有効」です。

ネットワークマネージャの ETASネットワークの自動構成 オプションのデフォルト設定をオフにします。このオプションがオフの場合は、ETASネットワークに使用するネットワークアダプタをユーザーが明示的に選択する必要があります。

- IPM_DEFAULT_OFFSET_START / IPM_DEFAULT_OFFSET_END
これらのパラメータで、ETASツールがETASハードウェアのIP割り当てに使用するデフォルトのIPアドレスの範囲のデフォルト値を定義することができます。値は空 (empty) または32ビット10進数のいずれかを使用します。この値が空の場合は、このパラメータは「未定義」となります。パラメータの名前からわかるように、両パラメータの設定値はネットワークアダプタのサブネットからのオフセットです。つまりこの範囲は、サブネットとホストの範囲を超えない限り、すべてのアダプタの構成に対して有効です。設定が未定義または無効の場合は、ETASネットワークマネージャはIP範囲にフォールバック値を定義します。先頭アドレスオフセットのフォールバック値は ".2" で、最終アドレスオフセットのフォールバック値は、ネットワークアダプタのサブセットの最後の有効なホストアドレスです (例：192.168.40.2～192.168.40.254)。
- PRODINSTDIR
INCAのインストールパスを指定します。
- LIMA_INIFILE
licensing.iniのインストールパスを指定します。licensing.iniファイルには、ライセンス情報が含まれます。
- DO_PRELOAD
変数選択ダイアログボックスを開く速度を早くするため、INCA起動時に.NET frameworkをロードしておきます。
- PRODDATAINSTDIRALL
作業ファイル (コンフィギュレーションファイル、データベースファイルなど) のパスを指定します。
- ETAS_TEMPPATH
一時ファイルのパスを指定します。
- ETAS_LOGPATH
ログファイルのパスを指定します。
- ETAS_LANGUAGE
ETASの多国語対応ソフトウェアに使用されるユーザーインターフェース言語を指定します。
- CREATE_UNINSTALLATION_SHORTCUT
Windowsのデスクトップにアンインストールのショートカットを自動的に作成します。
- ENABLE_ERROR_REPORTING
アプリケーションエラー発生時にZip & Send機能を有効にするかどうかを指定します。
- EMAIL_ERROR_REPORT_TO
Zip & Send機能によってエラーレポートをメール送信する際の送信先を指定します。複数のアドレスを "," (カンマ) で区切って指定することもできます。

- 以下の変数には、ユーザーやユーザーが所属する会社の情報が格納されます。任意の値を設定し、インストール時にデフォルト値として使用することができます。
 FirstName, LastName, Company, Department, AreaCode, Phone, Language, EMail, Street, ZIPCode, City, Country

6.2.2 ライセンス運用についての設定

使用時にライセンスが必要なソフトウェアについて、有効なライセンスや会社固有のライセンス設定が自動的に割り当てられるようにしておくことができます。これにより、インストールされたETAS製品が直ちに使用できるようになります。

ライセンスが有効化されたソフトウェアをユーザーに提供するには、`Licensing.ini`ファイルの内容を変更する必要があります。このファイルは、INCAインストールパッケージ内の各ソフトウェアのフォルダに格納されていて、任意のテキストエディタで開いて編集することができます。

注記

ライセンス管理されるETASの各ソフトウェアは、それぞれ個別のライセンスファイルを使用しますが、そこで設定されるパラメータは共通です。あるソフトウェアをインストールすると、以前にインストールされたソフトウェアが同じパラメータを設定していた場合は、その値が上書きされます。設定ファイルを編集する際には、各ソフトウェアで同じ設定を使用するようにしてください。

ここで使用できるパラメータは以下のとおりです。

- `LicenseFileName`
 追加するライセンスファイルの絶対パスを設定します。
- `LicensesToBorrow`
 ライセンスサーバーからライセンスを借用できる場合、このパラメータを使用して借用メカニズムについて設定することができます。借用メカニズムを有効にするには、ここに製品または機能のライセンス名（例：INCA、MDA）を指定します。2つ以上のライセンスを指定するには、各ライセンス名をスペースで区切って入力してください。
- `BorrowExpiryMode`
 借用期間の定義方法（日付または日数）を選択します。
 - `Interval`
 借用期間は、`BorrowExpiryInterval`で指定された日数を経過した時点で満了します。
 - `Date`
 借用期間は、`BorrowExpiryDate`で指定された日付に満了します。
- `BorrowExpiryDate`
`BorrowExpiryMode`が`Date`に設定されている場合、このパラメータで借用期間の終了日を指定します。フォーマットは`yyyy-mm-dd`です。
- `BorrowExpiryInterval`
`BorrowExpiryMode`が`Interval`に設定されている場合、このパラメータで借用日数を指定します。
- `BorrowAutomaticExtensionInterval`

`ExecuteBorrowAutomaticExtensionInterval`で指定されたタイミングにおいて借用期間を自動延長する日数を指定します。

— `ExecuteBorrowAutomaticExtensionInterval`

ライセンスの借用期間を延長するタイミングを定義します。このパラメータは、現在の借用期間終了の何日前に借用期間を延長するかを定義するものです。残日数がこのパラメータで設定された日数になると、`BorrowAutomaticExtensionInterval`で指定された日数だけ自動的に期間を延長します。借用期間の延長は、`AutoborrowActive`が`true`になっている場合にのみ行われます。

— `AutoborrowActive`

このパラメータが`true`になっていると、`BorrowAutomaticExtensionInterval`で指定された日数だけ借用期間の自動延長が行われます。

— `Ports`

複数のユーザーが同時にINCAを使用する場合は、異なる複数のポートを定義する必要があります。

7 ソフトウェアのアンインストール

INCA をアンインストールするには、Windowsコントロールパネルから**プログラムの追加と削除**、**アプリケーションと機能**、**プログラムと機能** のいずれかを選択します。

インストールされたコンポーネントを個々にアンインストールするには、INCAのセットアッププログラム (setup.exe) を起動します。ここではインストーラがメンテナンスモードで開きます。

個々のコンポーネントをアンインストールする

1. **修復** を選択して、**次へ** をクリックします。
2. アドオンの選択／非選択を変更し、**次へ** をクリックします。
インストールウィザードに変更内容が表示されます。
3. **修復** を選択して、選択内容を確定します。



注記

インストールされたファイルやフォルダは、手動で削除しないでください。

8 トラブルシューティング

8.1 パーソナルファイアウォールによる通信のブロック

Windowsオペレーティングシステムにはパーソナルファイアウォールが組み込まれていますが、そのほかに、サードパーティ製のパーソナルファイアウォール（Symantec、McAfee、BlackICEなど）も一般的によく使用されています。ポート構成の設定方法は各パーソナルファイアウォールソフトウェアごとに異なりますので、詳細についてはお使いのパーソナルファイアウォールソフトウェアの説明書をお読みください。

パーソナルファイアウォールは、ETASのイーサネットハードウェアや通信プロトコルへのアクセスを妨害する場合があります。それにより、ハードウェアの自動検索時に、コンフィギュレーションが正しく設定されているにもかかわらずイーサネットハードウェアがまったく検出されない、という状態が発生する可能性があります。そのような場合は、ETASソフトウェア使用中はファイアウォールソフトウェアを無効にするか、またはファイアウォールの設定を変更して以下のアクセスを許可するようにしてください。

8.1.1 ETASハードウェアへのアクセスに必要なファイアウォール通過の許可

- － UDP経由の送信用リミテッドIPブロードキャスト（デスティネーションIP255.255.255.255、デスティネーションポート：17099または18001）
- － UDP経由の受信用リミテッドIPブロードキャスト（ソースIP0.0.0.0からデスティネーションIP255.255.255.255へ、デスティネーションポート：18001）
- － UDP経由の、ETASネットワークへの直接IPブロードキャスト（デスティネーションポート：17099または18001）
- － UDP経由の、ETASネットワーク内のすべてのIPアドレスへの送信用IPユニキャスト（デスティネーションポート：17099～18020）
- － UDP経由の、ETASネットワーク内のすべてのIPアドレスからの受信用IPユニキャスト（ソースポート：17099～18020、デスティネーションポート：17099～18020）
- － ETASネットワーク内への送信用TCP/IP接続（デスティネーションポート：18001～18020）



注記

実際のポート番号は、使用するハードウェアに応じて異なります。ポート番号についての詳しい情報は、ハードウェアのドキュメントを参照してください。

8.1.2 XCP on Ethernetへのアクセスに必要なファイアウォール通過の許可

- － UDP経由のXCPスレーブ検知のための、ETASネットワーク内のすべてのIPアドレスへの送信用IPマルチキャスト（デスティネーションIP 239.255.0.0、ポート：5556）
- － UDP経由のXCPスレーブ検知のための、ETASネットワーク内のすべてのIPアドレスからの受信用IPマルチキャスト（デスティネーションIP 239.255.37.45、ポート：3745）

8.1.3 DoIP (Diagnostics over Internet Protocol) へのアクセスに必要なファイアウォール通過の許可

- － DoIPネットワークへの送信用TCP/IP接続（デスティネーションポート：13400）
- － UDP経由のDoIPのための、DoIPネットワークへの送信用IPユニキャスト（デスティネーションポート：13400）
- － UDP経由のDoIPのための、送信用リミテッドIPv4ブロードキャスト（デスティネーションIP 255.255.255.255、デスティネーションポート：13400）
- － UDP経由のDoIPのための、DoIPネットワークのすべてのIPアドレスへの送信用IPv6ブロードキャスト（デスティネーションIP FF02::1、デスティネーションポート：13400）
- － UDP経由のDoIPのための、DoIPネットワークからの受信用IPユニキャスト（デスティネーションポート：13400）

8.1.4 パーソナルファイアウォールの設定変更

以下に、Windowsのファイアウォールを例に、ハードウェアや通信プロトコルへのアクセスがブロックがされた場合の対処方法をご紹介します。

管理者権限を持っているユーザーの場合は、ETAS製品がファイアウォールによってブロックされると、その旨を通知するダイアログボックスが開きます。

注記

ファイアウォール設定を変更してPCをネットワークに再接続する際には、前もって社内のITセキュリティポリシーをご確認ください。その際にはIT担当の方にご相談いただくことをお勧めします。

製品のブロックを解除する

1. "Windowsセキュリティの重要な警告" ダイアログボックスで、**アクセスを許可する** をクリックします。

これ以降、該当するETASソフトウェアはファイアウォールによってブロックされなくなります。この設定は、ソフトウェアやPCの再起動後も維持されます。

上記の "Windowsセキュリティの重要な警告" ダイアログボックスが開く前に、前もってETASソフトウェアのブロックを解除しておくこともできます。

ファイアウォールの設定を変更して製品のブロックを解除する

1. Windowsの検索パネルに "**コントロール パネル**" と入力します。
2. 表示された **コントロール パネル** を選択します。
コントロールパネルのウィンドウが開きます。
3. コントロールパネルウィンドウで、**システムとセキュリティ** > **Windows ファイアウォール** をクリックします。
4. Windows ファイアウォールのウィンドウの左側ペインで **詳細設定** をクリックします。
"セキュリティが強化されたWindows ファイアウォール" ウィンドウが開きます。
このウィンドウにはファイアウォールに関する受信（入力方向）と送信（出力方向）の規則がすべて表示されます。ここでETASの製品とサービスが正しく設定されているかを確認してください。

5. 新しい規則を追加するには、左側ペインで **受信の規則** または **送信の規則** を右クリックしてショートカットメニューを開きます。
6. **新しい規則** を選択します。
7. 新しいウィンドウが開くので、**ポート** を選択し、画面に従って新しい規則を設定します。この設定に必要な情報は、本章の始めの部分に記載されています。

管理者権限を持たないユーザーのための解決方法（例）

システム変更、書き込み、ローカルログオンなどの権限が制限されているユーザーの場合は、以下のように操作してください。

ETASソフトウェアを使用するユーザーは、所定のディレクトリ（ETAS、ETASData、ETASの一時ディレクトリ）への"書き込み"の権利が必要です。それらの権利がない状態でINCAを起動すると、エラーメッセージが表示され、その後データベースが開きますが、正しい操作は行えません。これは、INCA操作時に必要となるデータベースファイルやINIファイルの書き換えが行えないためです。

ETASソフトウェアのインストールは、管理者権限のあるユーザーが行う必要があります。その後は、Windowsファイアウォールの例外リストにそのプログラムを正しく登録してください。これが行われていないと、"Windowsセキュリティの重要な警告" ウィンドウが開きます。

製品のブロックを解除する（管理者権限のないユーザーの場合）

1. "Windowsセキュリティの重要な警告" ダイアログボックスで、**このプログラムについてはこのメッセージを表示しない** をオンにします。
2. **OK** をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

この後、管理者権限のあるユーザーが "Windowsファイアウォール" ダイアログボックスの "例外" タブで適切な設定を行い、ETASソフトウェアがハードウェアアクセスを行えるようにする必要があります。

8.2 ETASネットワーク用のネットワークアダプタを選択できない

原因：APIPAが無効になっている

IPアドレッシングの代替メカニズムであるAPIPAは、すべてのWindowsシステム環境において通常は有効に設定されていますが、時にはネットワークセキュリティポリシーによって無効となっている場合もあります。そのような場合、DHCP設定のネットワークアダプタ（ネットワークカード）をETASハードウェアのアクセスに使用することはできず、そのアダプタを選択するとETASネットワークマネージャは警告メッセージを表示します。

無効になっているAPIPAメカニズムを有効にするには、Windowsのレジストリを編集する必要がありますが、これを行うには管理者の権限が必要です。ネットワーク管理者の方にご相談のうえ行ってください。

APIPAメカニズムを有効にする

1. Windowsのレジストリエディタを開きます。
2. 以下のフォルダを開きます。HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\

3. **編集 > 検索** を選択して以下のキーを検索します。
IPAutoconfigurationEnabled
APIPAメカニズムが無効になっていない場合、レジストリ内にこのキーは存在しません。このキーが存在する場合のみ、以下の操作でAPIPAメカニズムを有効にしてください。
4. APIPAメカニズムが有効になるように、見つかったすべての
IPAutoconfigurationEnabled キーの値を 1 に変更します。
Windowsのレジストリ内には、この名前のキーがいくつか含まれている場合があります。これらは一般的なTCP/IPサービス用のものと、個別のネットワークアダプタ用のものです。ETASネットワーク用に使用するアダプタについてのみ値を変更してください。
5. レジストリエディタを閉じます。
6. 変更されたレジストリの内容を有効にするため、PCを再起動します。

8.3 インストールに失敗する

原因：過去に行ったINCAまたはINCAアドオンのインストールに失敗しているINCAまたはいずれかのINCAアドオンのインストールに失敗すると、それ以降、サービスパックのインストール処理は正しく実行されません。

サービスパックの更新処理のエラーを解決して再インストールを実行する

1. PCを再起動します。
2. ETASのソフトウェアが起動していないことを確認します。
3. インストールを再実行し、PCを再起動します。
4. インストールが正常に実行されたかどうかを確認します。
正常に行われていない場合は、以下に進みます。
5. サービスパックインストーラを起動し、サービスパック全体、または選択したアドオンを再インストールするため、**修復モード** チェックボックスをオンにします。
6. **修復** をクリックします。
7. ログファイルに記録されたエラーの詳細を調べます。以下のログファイルが保存されています。

%PROGRAMDATA%\ETAS\SETUP_ServicePack\Logs\フォルダ:

- <date_time>_SP_Setup.log
- <date_time>_SP_Setup_debug.log

または

%PROGRAMDATA%\ETAS\SETUP\Logs\フォルダ:

- <date_time>Setup.log
- <date_time>Setup_debug.log

レジストリ内にDefaultLogPathNameというキーが存在しない場合は、ログファイルは%temp%または%ALLUSERPROFILE%フォルダに保存されます。

サービスパックインストーラのログ以外にも、最後に実行された製品／アドオンのインストールに関するログファイルが%AppData%\ETAS\SETUPに保存されます。このログファイルの末尾の部分に、問題の原因に関する情報が出力されている場合がありますので、ご確認ください。

8. 上記の対策を行ってもインストールが正常に行えない場合は、ETASのサポート窓口までお問い合わせください。

9 お問い合わせ先

テクニカルサポート

各国支社の営業やテクニカルサポートについての情報は、ETASウェブサイトをご覧ください。

www.etas.com/ja/hotlines.php



ETASでは、お客様向けに製品トレーニングを提供しています。

www.etas.com/academy

ETAS本社

ETAS GmbH

Borsigstraße 24	電話 :	+49 711 3423-0
70469 Stuttgart	Fax:	+49 711 3423-2106
Germany	インターネット :	www.etas.com

索引

A	
APIPA	33
E	
ETAS	
お問い合わせ先	36
ETASネットワークマネージャ	18,25,33
H	
HSP (ハードウェアサービスパック)	7
I	
INCAアドオン	7
install.ini	25
い	
インストールに失敗する	34
インストールのカスタマイズ	19
え	
エラーコード	23
お	
お問い合わせ先	36
こ	
個別インストール	14
コマンドライン引数	22
さ	
サービスパックインストーラ	11
し	
システム	7
せ	
製品を安全に使用するために	6
そ	
ソフトウェアをインストールする	13
て	
データ	6
と	
トラブルシューティング	31
ね	
ネットワークアダプタ	8,18,25,33
ネットワークアダプタのアドレッシングと構成	18
ネットワークアダプタを選択できない	33
は	
パーソナルファイアウォールによる通信のブロック	31

ふ

ファイアウォールの設定	9,31
プログラムのアンインストール	30
プログラムの更新	16